

江戸時代後期三河における東本願寺派宗学体制の一考察

― 暮戸会所や三河護法会の動向に触れて ―

遠山 佳治

## 江戸時代後期三河における東本願寺派宗学体制の一考察

— 暮戸会所や三河護法会の動向に触れて —

遠山 佳治

はじめに

愛知県は、真宗の寺院も門徒も多い真宗優勢地域であり、寺院間および寺院と門徒の関係が複雑に絡まっている。江戸時代には、伝統的な本末関係に基づく本末制度や、本山や地域の藩などから法度・連絡等が回る触頭制度のように、上下つまり縦関係の伝統的な体制が存在した。また、講組織をはじめとする寺院・門徒間の地域連合、寺院間の養子縁組を含む姻戚関係など横関係の体制も存在している。筆者はこれまで、これら様々な状況が、江戸時代後期の寛政期の本山再建運動を契機として、三河の東本願寺派真宗優勢という地域社会で、天保期の暮戸会所争論、幕末期の本末争論、そして明治初年の大浜騒動に至る、様々な事件を引き起こした要因であることを検討してきた。<sup>①</sup>しかし、各寺院が村々や檀家圏で運営していくためには、各寺院の僧侶が、関連する門徒農民から信望を得ていることが前提となる。つまり、僧侶は学習や経験を積み、説法等で絶えず門徒たちに人生指針や宗教のあるべき姿を説かないといけない。とくに、幕末維新时期のように、社会が大きく変動している時期においては、宗教が門徒に与える影響も大きかったと思われる。そのため、僧侶たちは、真宗の教義を

学習・研究する、本山の宗学組織（教学組織）に身を置き、研鑽に励んだのである。このことは一見、教団内の問題と認識され、従来では門徒など地域社会と直接関係させた研究成果が乏しいように思われる。<sup>②</sup>しかし、僧侶は地域知識人層と捉えられ、さらに彼らのネットワークが地域社会にとって重要な意味を持つと考えられる。そこで本稿では、まず三河地域の真宗僧侶が、本山の宗学組織にどのように関わっていったのか、その宗学組織に関わりを持つ真宗僧侶を支えた三河における宗学体制の動向を解明した上で、宗学組織で学んだ僧侶たちがどのように三河へ影響を及ぼしていったのか、そして三河護法会の設立など大浜騒動へ繋がっていく要因になったのかという関連性について触れていきたい。

### 一、本山における宗学気運の高まり

まず、本山における宗学の歴史を、『大谷派学事史』<sup>③</sup>『真宗教学史』<sup>④</sup>などより、紐解いておきたい。寛文五年（一六六五）前後に本山の宗学組織として学寮が創立され、延宝期（一六七三～一六八一）あたりまでを草創期と位置付けている。開講の具体的な日程が不明であるが、安居（経論の研鑽に励む研修会・講習会）も学寮設立とともに始まったといわれている。

元禄・宝永期（一六八八～一七一一）以降を、宗学普及期と位置付け、各地の御坊を中心に堂僧が活動したことにより、一般僧侶の宗学意識を高めたという。元禄末期より安居の時期が二・三月頃に固定化されたが、正徳五年（一七一五）以降は四月に開講され、六月に満講されるようになった。

それを夏安居または夏講と呼び、全国から多くの僧侶を集めた。転機となったのが、学寮を拡張するための、宝暦五年（一七五五）の高倉への移転である。高倉新学寮に伴って、学寮制度も刷新された。夏講に春講・秋講を加え、安居の年三講制を取った。また、学寮における専任講師として三講者（講師・嗣講師・擬講師）を置き、所化（講者の指導を受ける者）の取締役として寮司（塾頭）・擬寮司を置いた。そして、寛政六年（一七九四）から嘉永四年（一八五二）までを宗学全盛期と位置付けている。この期間に学寮で活躍した三河出身者僧侶を紹介すると、岡崎の明大寺村万徳寺の最親院義陶がいる。その最親院義陶は、文化四年（一八〇七）に山科国閑栖寺の異解（本山より正統でない）と解釈された教義（<sup>5</sup>）を、同六年には尾張五人男（威広院靈曜門下の靈瑞ら五僧）の不正義事件を解決している。

本山高倉学寮における夏講の詰衆所化参加者数をみると、明和八年（一七七二）が二七七人、寛政五年（一七九三）が三〇〇人、文化七年（一八一〇）が六〇〇人、文政八年（一八二五）が一五〇二人で、文化・文政期に急増し、その後天保期は横這い状態が続いている。<sup>6</sup>その発展の一翼を担ったのが学寮講師の香月院深励と円乗院宣明で、香月院門下の垂天結社約一二五〇人中には三河の僧侶が四五人、円乗院門下の結社約四五〇人中には三河の僧侶三人が属している。最親院義陶の三男であった岡崎明大寺村万徳寺の妙音院了祥も、高倉学寮で香月院深励に師事し、往生における平等を強調した『非人教化』や、「歎異鈔」の研究を進めた『歎異鈔聞記』など、

多くの書籍を世に送った学僧として活躍した。<sup>7</sup>そして天保四年（一八三三）四月に岡崎で「一枚起請文」を、同年一〇月に「正信偈」を、同二年（一八四一）には赤羽御坊で「略文類」を講じている。<sup>8</sup>

このような宗学全盛期に、高倉学寮で安居に参加したり、学寮講師の結社に加入したりして勉学に励んだ僧侶たちが、全国各地に帰ることによって、各地にも勸学の気風が浸透していった。本山側も地方への教化を促進させる目的で、当時擬講師の実言院浄満寺慧景が、文政九年（一八二六）四月には三河の三か寺（碧海郡野寺村本證寺・同郡佐々木村上宮寺・額田郡針崎村勝鬘寺）と赤羽御坊・吉田御坊を、同年一月には吉田御坊、碧海郡刈谷の正覚寺、碧海郡小川組、加茂郡寺部村守綱寺などを訪れている。<sup>9</sup>

さらに、天保元年（一八三〇）正月には本山より諸国の寺院へ、生活の如法刷新を念じ、攻学専心に門徒たちへの教化に勤めるよう触れが出て、<sup>10</sup>当時嗣講師（のち講師）で香月院門下の香樹院徳龍が、二月に尾張・美濃・飛騨そして三河へと「切支丹邪法・僧分不如法」の演説のため巡回している。<sup>12</sup>

天保四年（一八三三）には門跡達如によって文政九年（一八二六）に書かれた僧侶学問奨励の御書が、「三河国結夏所化寄講中」宛に届いている。<sup>13</sup>天保七年（一八三六）には、学寮にて研学を収めた僧侶に、日常生活の反省自肅を求め、不律不如法の行動のないよう深く教誡を加える御書立を明示している。天保八年（一八三七）三月には円乗院門下で当時嗣講師（のち講師）の開悟院靈暉が本證寺を、翌九年（一八三八）七月には嗣講師の華光院円解が勝鬘寺を訪れている。<sup>16</sup>

このような本山における宗学の気運は、平田派国学による仏教批判の反

攻勢としての働きも持つ。すでに、国学の仏教排斥思想は、天保期（一八三〇～一八四四）の三河にもみられる。加茂一揆を「鴨の騒立」としてまとめた幡豆郡寺津村八幡宮神官の渡辺政香は、仏教を批判した「増補千引巖」も執筆している。<sup>(17)</sup>このような状況に、在地の僧侶たちも危機感を抱いたと思われる、本山の宗学気運を在地で展開させるよう促進されたと考えられる。<sup>(18)</sup>

また、天明八年（一七八八）以降本山は度重なる火災と再建によって、各地の寺院・門徒の協力を得た。その経済的な支援によって、本山と三河を含めた全国の一般門徒の距離も近くなっていったと思われる。しかしながら、それは社会世俗的な要因としての繋がりがだけであって、宗教教団としての結びつきが深められた訳ではなかった。僧侶側に宗学の気運がより一層高まって来たのは、そのような状況を刷新しないといけないと思う流れがあったからと思われる。

## 二、圭州泰静の異安心と三河国内宗学体制の整備

天保一〇年（一八三九）三月に、三河国内にて寮司が集会を開き、以下の国則六か条が決められ、三河における宗学体制が確立し始めた。全文を紹介しておく。

### 国則

一、国内寮司役吹挙之儀、国方ニおいて五事兼備之人体篤と相見立、毎年夏前ニ集会致し、其節惣評之上取究可申候事

附り擬寮司吹挙之儀者、夏臘年満之御定茂有之候得者、本役吹挙程之

吟味ニも及中間敷候得共、是又猥ニ吹挙致間敷事

一、国役之事首座ニ巡席ニ相立、其年之夏中在京懸席之上諸向取計之儀者勿論、年内国方取締之義迄取計可申候、若廻席之人体差支有之候ハ、次席江相送り相勤可申候、尤国役之外ニ御学寮向明白之人体国方上首と相定置、国役相勤候者不案内之義有之候ハ、右上首方江間合取計可申事

附国方江相抱り候義者国役始在京之輩一同納得致候共、京都限りニ取究中間敷候、国許江能々熟談ニ及可申候事

一、役中平席ニ不抱在京懸席之節者、早速国役江相届可申候、若届無之輩ハ夏臘年満たり共、転席之節可為差支事

一、夏中国会之義、定日相触候節、在洛之面々ハ会合之節、病氣或者無扨帰国致し候而出席無之候共、国会料無異儀差出可申候事

但シ、会日治定無之以前ニ無扨帰国、或者会后上京之輩者、不能其義候事

一、国内入座金之儀、転席之当日早速割合可申候、仮令当日在京たり共、国役江届無之人体江者配金中間敷事

附り他国ハ入国人座金之儀者、国方一同へ相抱り候事故、国方ニ而夏前会合之因ニ集会之人数江可及配金事

一、於国内三講者御講談者勿論、寮司擬寮司会読之節、役中之指魔を不用故障申出候輩者、却而学向妨之人躰ニ候得者、御学寮懸席之砌ハ知事所江相届配属致間敷候、将又国方講談之節右之者出席ニおいてハ其節之役筋江相届、御学寮懸り之者一同退席可致事

附り寮司擬寮司役蒙仰候ハ、早速於国方熟意之者共発起致し、見台開之会谈相催可申候事、

以上<sup>19)</sup>

その内、第一・二・五条の三か条の主な内容は、以下のようである。

- 1、国内で吹挙する寮司役は、毎年夏に集会で評決する。
- 2、国役は首座より巡席に勤め、夏は在京で懸席を勤める。
- 3、国役入座金は全て国役が取り仕切る。

天保一一年（一八四〇）の国役を在京寮司の雅了<sup>20)</sup>、知事当役を額田郡坂崎村正源寺の静明が務めている。天保一五年（弘化元年）は幡豆郡西尾の聖運寺恵明が勤めており、暮戸会所にて天保一五年には国内結衆の「隸名帳<sup>21)</sup>」を作り、本山高倉学寮の安居講義への参加者を銘記する体制を整えている。

天保一一年春には開悟院靈暉が赤羽御坊にて「正信偈」を、翌一二年正月には妙音院了祥が「略文類」を、同年三月に香雲院澄玄が赤羽御坊にて「口伝鈔」を、天保一三年九月には易往院知準が赤羽御坊で講じ、天保一四年一月に擬講師の皆乘院観月が訪れている<sup>22)</sup>。さらに、天保一二年二月から同一五年二月まで碧海郡若林村円楽寺の圭州泰静に対して、雲華院大舎・開悟院靈暉・香雲院澄玄・易往院知準等<sup>23)</sup>が異安心の調理（取り調べ）を行っている。異安心とは、宗祖親鸞が説いた教えと異なると判断された教義を指している。文化一〇年（一八一三）に円楽寺に入寺した圭州泰静は、文政元年（一八一八）夏に寮司に就任し、文政五年に「円順法師終焉記」、天保二年に「被法罪聚鈔」を著わして、異義を募ったのである<sup>24)</sup>。

その圭州泰静の考えとは、頼む者の願いを助けるという「能行所信、所行所信」を積極的に薦めたことで、その考えを突き詰めると、真宗教義の他力本願でなく、自力で解決する道に繋がるといふ。そして、「国元に於て、

御法義筋混乱に及ぶ」事態を引き起こしたのである<sup>25)</sup>。なぜ、このような真宗教義に反する考えが生じ、また流布してしまったのであろうか。ほぼ時を同じくして、天保三年から同九年まで（一八三二〜一八三八）に暮戸会所争論が起きており、本山再建に尽力した有力門徒と改革派僧侶が争っていた。今まで三河の真宗勢力を引っ張って来た有力門徒の多くは、家財を投げ打った経済的支援を行い、それを「報謝」と名乗り、宗教的修行に値するという形を取っている。そして、有力門徒らの個人的な願いの解決に、真宗僧侶を頼ったに違いなからう。つまり、圭州泰静の考えは、有力門徒の功績を支援したものと見え、三河の真宗門徒の意向を反映したものであったと考えられる。

このように、異安心審議や開講講師のために、本山学僧が三河の動向を注目したり、三河へ入国したりしていたことも、三河国内の宗学体制構築に拍車をかけたことであろう。さらに、碧海郡若林村円楽寺の圭州泰静の異安心審議の終了した年と、本山高倉学寮の安居講義への参加者を銘記する体制を整えた年が天保一五年（弘化元年、一八四四）という同じ年であったことは、三河国内側が本山に対して刷新した体制を強調したものと思われる。

### 三、高倉学寮における夏講義の参加

三河国内にて本山高倉学寮夏講へ参加する体制が整った天保一五年（弘化元年、一八四四）における夏講では、発講が講師の雲華院大舎の「讚阿弥陀仏偈」、開講が嗣講師の即往院円龍の「仏説阿弥陀経」で、三河からの初入（初参加）が三五人を数える。以下、暮戸会所を拠点として、本山

表1 本山夏講への三河国僧侶の初入者人数一覧（郡別）

|      | 発講題目   | 発講講師 | 開講      | 開講嗣講師  | 三河からの初入者数 |     |     |     |     |     |    |     |
|------|--------|------|---------|--------|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|
|      |        |      |         |        | 碧海郡       | 幡豆郡 | 額田郡 | 加茂郡 | 宝飯郡 | 渥美郡 | 不明 | 計   |
| 弘化元年 | 讀阿弥陀偈  | 雲華院  | 仏説阿弥陀經  | 即往院    | 16        | 7   | 8   | 3   | 0   | 1   |    | 35  |
| 弘化2年 | 正信念仏偈  | 雲華院  | 觀經玄義分   | 唯泉寺    | 5         | 4   | 3   | 1   | 2   | 1   |    | 16  |
| 弘化3年 | 入出二門偈  | 開悟院  | 往生礼贊    | 皆遵院    | 10        | 4   | 1   | 0   | 1   | 1   |    | 17  |
| 弘化4年 | 往生論    | 雲華院  | 觀無量寿經   | 源德寺    | 10        | 9   | 2   | 2   | 1   | 1   |    | 25  |
| 嘉永元年 | 浄土文類聚鈔 | 香樹院  | 仏説阿弥陀經  | 一蓮院    | 10        | 4   | 1   | 5   | 0   | 1   |    | 21  |
| 嘉永2年 | 大無量寿經  | 雲華院  | 正信念仏偈   | 開悟院    | 3         | 0   | 3   | 2   | 1   | 0   |    | 9   |
| 嘉永3年 | 十住毘婆娑論 | 香樹院  | 往生要集    | 皆乘院    | 2         | 4   | 2   | 2   | 1   | 1   |    | 12  |
| 嘉永4年 | 愚禿鈔    | 開悟院  | 玄義分     | 源德寺    | 3         | 1   | 0   | 1   | 0   | 0   |    | 5   |
| 嘉永5年 | 浄土論註   | 香樹院  | 讀阿弥陀偈   | 一蓮院    | 3         | 2   | 1   | 5   | 1   | 0   | 3  | 15  |
| 嘉永6年 | 選撰集    | 源德寺  | 安樂集     | 一蓮院    | 6         | 2   | 0   | 1   | 0   | 3   | 1  | 13  |
| 安政元年 | 正像末和讃  | 香樹院  | 大無量寿經   | 皆遵院    | 4         | 5   | 7   | 2   | 1   | 1   |    | 20  |
| 安政2年 | 往生礼贊   | 本法院  | 觀經散善義   | 常德寺    | 7         | 0   | 5   | 3   | 0   | 0   |    | 15  |
| 安政3年 | 正信念仏偈  | 香樹院  | 大無量寿經下卷 | 一蓮院    | 2         | 2   | 1   | 1   | 0   | 1   |    | 7   |
| 安政4年 | 高僧和讃   | 本法院  | 入出二門偈   | 皆乘院    | 5         | 0   | 2   | 1   | 1   | 0   |    | 9   |
| 安政5年 | 序分義    | 皆遵院  | 阿弥陀經    | 円光寺(擬) | 5         | 1   | 3   | 0   | 1   | 0   |    | 10  |
| 安政6年 | 浄土和讃   | 皆遵院  | 定善義     | 賢珠院    | 2         | 0   | 0   | 2   | 0   | 0   |    | 4   |
| 万延元年 | 浄土和讃   | 皆遵院  | 正信念仏偈   | 覚明寺    | 2         | 0   | 1   | 2   | 0   | 0   |    | 5   |
| 文久元年 | 觀經序分義  | 賢珠院  | 浄土文類聚抄  | 覚明寺    | 2         | 0   | 2   | 0   | 0   | 0   | 1  | 5   |
| 文久2年 | 觀經玄義分  | 賢珠院  | 入出二門偈   | 覚明寺    | 2         | 4   | 0   | 2   | 1   | 0   |    | 9   |
| 文久3年 | 觀念法門   | 賢珠院  | 選撰集     | 常行院    | 2         | 4   | 2   | 0   | 0   | 0   |    | 8   |
| 元治元年 | 往生礼讃   | 賢珠院  | 仏説觀無量寿經 | 香山院    | 8         | 4   | 2   | 5   | 1   | 0   |    | 20  |
| 慶応元年 | 法事讃    | 賢珠院  | 選撰集     | 守綱寺    | 3         | 2   | 2   | 2   | 2   | 0   |    | 11  |
| 慶応2年 | 大無量寿經  | 香山院  | 觀經散善義   | 關彰院    | 12        | 3   | 2   | 2   | 0   | 0   |    | 19  |
| 慶応3年 | 般舟讃    | 賢珠院  | 安樂集     | 灯明寺    | 10        | 5   | 1   | 4   | 0   | 1   |    | 21  |
| 明治元年 | 大無量寿經  | 香山院  | 浄土論註    | 威力院    | 12        | 0   | 0   | 1   | 1   | 0   |    | 14  |
| 明治2年 | 浄土文類聚抄 | 賢珠院  | 浄土和讃    | 開華院    | 20        | 4   | 6   | 0   | 2   | 1   |    | 33  |
| 明治3年 | 往生要集   | 香山院  | 觀經玄義分   | 關彰院    | 9         | 2   | 5   | 1   | 0   | 1   | 1  | 19  |
| 明治4年 | 往生礼讃   | 香山院  | 高僧和讃    | 瑞応院    | 1         | 0   | 2   | 3   | 0   | 0   |    | 6   |
| 明治5年 | 正信念仏偈  | 開華院  | 正像末和讃   | 長照寺    | 4         | 0   | 1   | 2   | 0   | 0   |    | 7   |
| 計    |        |      |         |        | 180       | 73  | 63  | 55  | 17  | 14  | 6  | 410 |

(暮戸教会文書「隷名帳」より作成)

表2 本山三講者の三河出身僧侶(文政6年~明治3年)

|       | 講師期間       | 講師名   | 郡村名・寺名   | 本末関係 | 組     |
|-------|------------|-------|----------|------|-------|
| 本法院義讓 | 天保11年~弘化2年 | 擬講師   | 幡豆郡横須賀村  | 源德寺  | 本證書下  |
|       | 弘化2年~嘉永5年  | 嗣講師   |          |      |       |
|       | 嘉永5年~安政5年  | 講師    |          |      |       |
| 教行院義弁 | 嘉永2年~万延元年  | 擬講師   | 碧海郡鷲塚村   | 蓮成寺  | 本證書孫下 |
| 因明院晃耀 | 慶応3年~      | 擬講師   | 幡豆郡一色村   | 安休寺  | 直末    |
| 宣忠院恵鏡 | 慶応3年~      | 擬講師   | 額田郡岡崎祐金町 | 専福寺  | 上宮寺下  |
| 牧浩然   | 明治3年~      | 員外擬講師 | 碧海郡吉浜村   | 正林寺  | 本證書下  |

(大谷大学真宗総合研究所編『上首寮日記』I~IVを中心にして作成)

の夏講義への参加僧侶の体制が幕末維新期まで三〇年間続くことになる(表1参照)。

ここで、天保期以降にとくに活躍した三河出身僧侶を紹介しておきたい。文政六年(一八二三)から寮司を務めていた碧海郡今村専超寺の齊心は、暮戸会所争論にて暮戸方に味方したことで、天保五年(一八三四)に職を解かれていく(表2参照)。その齊心に替わって活躍していったのが、幡豆郡上横須賀村源德寺の本法院義讓であった。彼は、文化八年(一八一二)に名古屋養念寺の擬講師の威広院靈曜に師事し、文政三年(一八二〇)には寮司として夏講で副講をし、天保十一年(一八四〇)に擬講師に、弘化二年(一八四五)に嗣講師に、嘉永五年(一八五二)に講師となる。翌六年(一八五三)には異安心の烙印を押された西尾唯法寺の観成(のちの占部観順)<sup>26)</sup>の調理(取り調べ)に当たっている。また嗣講師として弘化四年(一八四七)、嘉永四年(一八五一)に、講師として嘉永六年

(一八五三)・安政二年(一八五五)・安政四年(一八五七)に、いずれも夏講の講義を務め、安政元年(一八五四)一〇月と安政三年(一八五六)三月に、本證書にて「二種深信」を講じている。暮戸会所争論の時期に当たる天保四年(一八三三)の寮司の頃の記録では、「三州義讓寮司是迄国元其外所々おひて、自他之書籍数十部内講有之、其上御法義筋引立専務被

表3 寮司・擬寮司となった三河国僧侶人数一  
覧（年次別）

|       | 擬寮司人数 | 寮司人数 | 計   |
|-------|-------|------|-----|
| 文政6年  |       | 1    | 1   |
| 文政7年  | 1     |      | 1   |
| 文政8年  |       |      |     |
| 文政9年  | 1     | 2    | 3   |
| 文政10年 |       | 1    | 1   |
| 文政11年 | 1     | 2    | 3   |
| 文政12年 |       |      |     |
| 天保元年  | 2     | 1    | 3   |
| 天保2年  | 3     | 1    | 4   |
| 天保3年  | 4     | 1    | 5   |
| 天保4年  | 3     |      | 3   |
| 天保5年  | 2     | 2    | 4   |
| 天保6年  |       |      |     |
| 天保7年  | 3     | 2    | 5   |
| 天保8年  | 3     | 1    | 4   |
| 天保9年  | 6     | 3    | 9   |
| 天保10年 | 4     | 2    | 6   |
| 天保11年 | 5     |      | 5   |
| 天保12年 | 5     |      | 5   |
| 天保13年 | 5     | 1    | 6   |
| 天保14年 | 2     | 3    | 5   |
| 弘化元年  | 3     | 4    | 7   |
| 弘化2年  | 6     | 3    | 9   |
| 弘化3年  | 6     | 6    | 12  |
| 弘化4年  | 2     | 2    | 4   |
| 嘉永元年  | 6     | 3    | 9   |
| 嘉永2年  | 9     | 2    | 11  |
| 嘉永3年  | 3     | 5    | 8   |
| 嘉永4年  | 4     | 2    | 6   |
| 嘉永5年  | 8     | 2    | 10  |
| 嘉永6年  | 8     | 3    | 11  |
| 安政元年  | 4     |      | 4   |
| 安政2年  | 7     | 2    | 9   |
| 安政3年  | 4     | 2    | 6   |
| 安政4年  | 3     | 3    | 6   |
| 安政5年  | 1     | 2    | 3   |
| 安政6年  | 5     |      | 5   |
| 万延元年  | 5     | 5    | 10  |
| 文久元年  | 1     | 2    | 3   |
| 文久2年  |       | 4    | 4   |
| 文久3年  | 1     | 5    | 6   |
| 元治元年  | 7     | 2    | 9   |
| 慶応元年  | 4     | 2    | 6   |
| 慶応2年  | 6     | 2    | 8   |
| 慶応3年  | 4     | 2    | 6   |
| 明治元年  | 6     | 1    | 7   |
| 明治2年  | 4     | 8    | 12  |
| 明治3年  | 10    | 4    | 14  |
| 明治4年  | 2     | 2    | 4   |
| 明治5年  | 4     | 2    | 6   |
| 計     | 183   | 105  | 288 |

（幕戸教会文書「隷名簿」より作成）

致候故、門侶ハ勿論同行一統帰伏仕候<sup>(27)</sup>と三河国内で活動をし、僧侶のみならず一般門徒（とくに改革派）に大きな影響を与えていたことが知り得る。そして、安政五年に死去したものの、多くの門下生を輩出している。彼の門下で三河出身僧の中には、幡豆郡室村順成寺の出身で、文久三年（一八六三）に宝飯郡蒲形村専覚寺に入寺した冷香院潛龍<sup>(28)</sup>がいる。弘化四年（一八四七）に、その冷香院潛龍と一緒に本山の夏講に参加した、碧海郡吉浜村正林寺の牧浩然も本法院義讓門下である。その牧浩然是、幡豆郡一色村安休寺の出身で、兄の安休寺の因明院晃耀<sup>(29)</sup>も本法院義讓門下である。その他の門下として、僧林社という社中を組織して多くの書写本を残し、慶応三年（一八六七）に擬講師になった岡崎祐金町専福寺の宣忠院恵鏡<sup>(30)</sup>もいる。碧海郡鷺塚村蓮成寺出身で、嘉永四年（一八五二）に碧海郡青野村慈光寺に転住してきた、当時擬講師の教行院義弁も本法院義讓門下である。

ここで、三河僧侶の夏講参加僧侶数の推移をみると、三河での宗学体制が確立した天保一五年（弘化元年、一八四四）から一一年後の安政二年（一八五五）までは、平均して年約一七人の参加があり比較的多い。それは単に三河だけの問題ではなく、三河出身の本法院義讓の学寮における活躍によって導かれていたものと考えられる。その後参加者数は伸び悩み、以後八年間の平均は年約七人となった。とくに減少に転じた安政三年（一八五六）には、幕末期に至る本末争論が発生した年に当たり、本末争論との関連性も考えられるが、詳細は不明である。また、三河の参加僧侶から選出された寮司・擬寮司についてみると（表3～5参照）、文政六年（一八三三）から明治五年（一八七二）までの約五〇年間で延約二九〇人いる。もう少し時期を区分してみると、夏講義初入者とはほぼ同じ傾向を示し、天保九年（一八三二）から嘉永六年（一八五三）、そして万延元年（一八六〇）から明治三年（一八七〇）に増加しているものの、夏講義初入者よりは増減の起伏が少なく一様に続いている感がある。地域性をみると、碧海郡が圧

表4 寮司・擬寮司となった三河国僧侶人数一覧（郡別）

|     | 寮司・擬寮司人数 |
|-----|----------|
| 碧海郡 | 84       |
| 幡豆郡 | 48       |
| 加茂郡 | 37       |
| 額田郡 | 30       |
| 宝飯郡 | 19       |
| 渥美郡 | 6        |
| 設楽郡 | 1        |
| 不明  | 3        |
| 計   | 228      |

（暮戸教会文書「隸名簿」より作成）

倒的に多く約三七・六%を占め、幡豆郡・加茂郡と続く。そして、幡豆郡の室村順成寺、横須賀村源徳寺、一色村安休寺をはじめ、寮司・擬寮司を複数人輩出している寺院が目立つ。

嘉永三年（一八五〇）に、本山高倉学寮を中心に、信機自力説（自

分の心がある間は悪人と思えないので本願を信受できないという考え）を主張する能登国長光寺頓成の異安心事件が起こっており、同時期に三河からの夏講参加者が減少した要因に本山側の動向が左右していたとも考えられる。たとえば頓成側に加担しないようにという本山の要請<sup>(31)</sup>によって、三河僧侶の花押付きの署名誓書を、三河の寮司・擬寮司が取りまとめ役として提出している。また、頓成側に加担したと思われる三河の僧侶飛竜（碧海郡青野村本光寺）・円界（宝飯郡形原村林光寺の円海か）について、当時三河国役を務めていた岡崎祐金町専福寺の恵鐘が、本山からの問いに「頓成同腹にハ無之趣」と答えている<sup>(32)</sup>。なお翌四年（一八五二）七月に、本院義讓は、寺社奉行所より立場上管理不行届きの罪として閉塞が申し渡された<sup>(33)</sup>。

このように、天保期には頻繁にみられた本山からの学僧の三河入国であるが、弘化二年（一八四五）二月に正定院制心が赤羽御坊を訪れ、翌三年に雲華院大舎が赤羽御坊で開講して以降は、三河出身の本院院義讓を除き、本山からの学僧の三河入国は途絶えてしまう。ようやく安政三年（一八五六）九月に、天保期から三河に縁のある講師の香樹院徳龍が、三河三か寺

と赤羽御坊・吉田御坊・暮戸会所、岡崎六地藏町の浄専寺を訪れている<sup>(34)</sup>。先に記したように、本院院義讓の開講は三河三か寺の本證寺で行われ、赤羽御坊の宗学的役割は、天保期の暮戸会所争論で拠点として活躍していた頃に比べると、次第に縮小していったものと思われる。それに対して、暮戸会所が僧侶たちの活動の拠点として定着化していったと思われる。嘉永元年（一八四八）一〇月には達如上人の六字名号を拝領、嘉永四年（一八五一）八月には、親鸞寿像を借用している<sup>(35)</sup>。このように、暮戸会所は宗教施設としての整備を着々と進めており、天保期以前の本山再建支援活動の拠点としての役割から変容していったことが知り得る。

#### 四、幕末維新期の宗学体制と大浜騒動

前項にて、安政期以降に三河僧侶の夏講参加僧侶数が停滞していると述べたが、元治元年（一八六四）を境に再び参加者は増加し、大浜騒動が起こる前の明治三年（一八七〇）まで七年間の平均は年約二〇人に及んでいる。

慶応二年（一八六六）二月に、寮司で擬講師代理の越前国是海が三河に入国し、講和活動を進めた。しかし、その講話が異風異義だったため、参列した寺院・門徒たちは賛否両論に分かれて收拾が付かない状況になった。すでに、嘉永七年（一八五四）に異安心として、越前国是海は三河出身の本院院義讓より教誡を受けていたが、再び同じ状況を起したのである。今回は、本院院義讓門下の冷香院潜龍・因明院雲英晃耀と擬講師の雲澗院神興が事件の收拾に当たった。そして、冷香院潜龍を中心とした幡豆郡室村順成寺一派（津梁・温讓・台嶺）と因明院雲英晃耀を中心とした幡豆郡一



表5 寮司・擬寮司となった西三河僧侶一覧（郡別）

| 僧侶名    | 寺院名             | 本山夏講初年 | 擬寮司入座年 | 寮司入座年 | 備考                   |
|--------|-----------------|--------|--------|-------|----------------------|
| 源静     | 加茂郡助生村礼善寺新発意    |        | 安政4年   | 文久元年  |                      |
| 林翁     | 加茂郡足助村宗恩寺現住     |        | 天保元年   |       |                      |
| 開放     | 加茂郡池嶋村超仁寺現住     |        | 天保4年   |       |                      |
| 風分     | 加茂郡池嶋村超仁寺後住     |        | 嘉永2年   | 安政5年  |                      |
| 風洲     | 加茂郡上之山村明照寺現住    |        | 天保9年   |       |                      |
| 法道     | 加茂郡上野山村明勝寺後住    | 安政6年   | 慶応元年   | 明治3年  | 明治2年講義擬寮司            |
| 栖神     | 加茂郡梅坪村安長寺現住     |        | 弘化4年   | 天保10年 | 弘化2年9月没              |
| 道辨     | 加茂郡梅坪村安長寺弟子     |        | 弘化4年   | 嘉永4年  |                      |
| 快徹     | 加茂郡大田村信光寺現住     |        | 天保3年   |       |                      |
| 快敏     | 加茂郡大田村信光寺現住     |        |        | 嘉永元年  |                      |
| 大響     | 加茂郡大田村信光寺現住     | 明治4年   | 明治5年   |       |                      |
| 園頭（円頭） | 加茂郡上鷹見村清通寺現住    | 嘉永5年   | 安政6年   | 文久2年  |                      |
| 義潭     | 加茂郡拳母佛龍寺現住      |        |        | 万延元年  |                      |
| 円満     | 加茂郡拳母佛龍寺現住      |        |        | 慶応3年  |                      |
| 祐誠     | 加茂郡川口栄行寺        | 嘉永2年   | 安政2年   |       | 額田郡八町光円寺へ転寺          |
| 遊観     | 加茂郡酒呑村皆福寺現住     |        | 天保2年   |       |                      |
| 文成     | 加茂郡酒呑村皆福寺弟子     | 慶応2年   | 明治3年   |       |                      |
| 義呈     | 加茂郡酒呑村皆福寺現住     |        |        |       | 明治2年講義寮司             |
| 一竜     | 加茂郡下林村善宿寺現住     |        |        | 嘉永元年  |                      |
| 廓然     | 加茂郡下林村善宿寺後住     |        | 明治3年   |       |                      |
| 栖心     | 加茂郡稻村免願寺現住      | 文久2年   | 明治4年   |       |                      |
| 祐義     | 加茂郡鷹見村精通寺現住     |        | 天保3年   |       |                      |
| 円頭     | 加茂郡鷹見村精通寺現住     |        |        |       | 明治2年講義寮司             |
| 良昌     | 加茂郡瀧脇村専光寺現住     |        |        | 天保5年  |                      |
| 得業     | 加茂郡瀧脇村専光寺後住     | 弘化4年   | 嘉永5年   | 慶応元年  |                      |
| 徳尊     | 加茂郡田振村楽円寺後住     |        | 慶応元年   | 明治5年  |                      |
| 龍泉     | 加茂郡月原村明誓寺新発意    | 嘉永元年   | 安政元年   | 文久2年  | 役者                   |
| 龍聖     | 加茂郡月原村明誓寺       | 万延元年   | 慶応2年   |       |                      |
| 法月     | 加茂郡寺部村守綱寺舎弟     |        |        | 文久3年  |                      |
| 法心     | 加茂郡寺部村守綱寺弟子     | 万延元年   | 慶応元年   |       |                      |
| 円道     | 加茂郡寺辺村守綱寺現住     |        |        | 明治2年  |                      |
| 菓解     | 加茂郡栢立村高福寺現住     |        |        | 天保7年  |                      |
| 勇猛     | 加茂郡富田村智誓寺現住     |        |        | 天保14年 | 役者                   |
| 順慶     | 加茂郡野口村増慶寺弟子     | 嘉永元年   | 嘉永6年   |       | 国閑違反                 |
| 顕明     | 加茂郡野口村増慶寺現住     | 文久2年   | 明治4年   |       |                      |
| 諺教     | 加茂郡花園村易往寺現住     |        |        | 天保5年  |                      |
| 正受     | 加茂郡花本村光明寺後住     | 嘉永元年   | 安政5年   | 文久3年  | 上首寮（～嘉永2年9月）         |
| 淳恵     | 加茂郡若林村円梁寺       |        | 嘉永6年   |       |                      |
| 義芳     | 加茂郡若林村浄照寺現住     |        | 安政3年   |       |                      |
| 恵明     | 額田郡高谷村安楽寺現住     |        |        | 文政10年 |                      |
| 恵成     | 額田郡高谷村安楽寺後住     |        | 弘化3年   | 嘉永6年  |                      |
| 大典     | 額田郡高谷村安楽寺次男     | 弘化元年   | 嘉永3年   |       |                      |
| 祐海     | 額田郡一色村明円寺       |        |        |       | 明治2年講義擬寮司            |
| 龍雪     | 額田郡岩堀村西光寺現住     |        |        |       | 明治2年講義擬寮司            |
| 智山     | 額田郡小美村順正寺新発意    | 元治元年   | 明治元年   |       | 大浜騒動糾弾者、明治2年講義当役・擬寮司 |
| 泰静     | 額田郡生平村不退寺       |        | 天保3年   |       |                      |
| 了義     | 額田郡大井野村源光寺現住    |        | 安政6年   | 明治2年  |                      |
| 住道     | 額田郡大草村正梁寺現住     |        |        | 天保2年  |                      |
| 徳喬     | 額田郡大草村広福寺後住     |        | 嘉永3年   | 安政3年  |                      |
| 釋戒     | 額田郡大草村広福寺弟子     |        | 明治3年   |       |                      |
| 団成     | 額田郡大山村妙恩寺現住     |        | 天保12年  | 弘化元年  |                      |
| 志露     | 額田郡岡崎専福寺後住      |        | 天保14年  | 弘化3年  | 擬講師（慶応3年～）           |
| 義洞     | 額田郡岡崎専福寺次男      | 弘化元年   | 嘉永2年   | 安政4年  | 加茂郡力石村如意寺現住（安政4年）    |
| 蓮海     | 額田郡岡崎専福寺後住      |        | 慶応元年   | 明治2年  |                      |
| 祐敬（専意） | 額田郡岡崎六供興蓮寺      |        | 嘉永6年   |       |                      |
| 助純     | 額田郡奥殿村西光寺現住     |        | 天保7年   |       | 役者                   |
| 法梁     | 額田郡駒立村本光寺現住     |        |        |       | 明治2年講義寮司             |
| 静明     | 額田郡坂崎村正源寺現住     |        |        | 文政9年  |                      |
| 霊徳     | 額田郡高隆寺村大徳寺現住    |        | 万延元年   |       |                      |
| 円寿     | 額田郡滝村弘願寺隠居      |        | 天保4年   |       |                      |
| 龍敏     | 額田郡田代村長照寺現住     |        | 天保9年   |       | 役者                   |
| 藤天     | 額田郡中畑村照源寺現住     | 弘化元年   | 嘉永2年   | 万延元年  |                      |
| 恵実     | 額田郡萩村専福寺後住      |        | 天保9年   |       |                      |
| 専亮     | 額田郡羽柴村順因寺舎弟     |        | 安政2年   |       |                      |
| 蔵界     | 額田郡馬場村願正寺       |        | 安政元年   | 万延元年  |                      |
| 得聞     | 額田郡深溝村円超寺現住     |        | 天保8年   | 嘉永2年  |                      |
| 周観     | 額田郡藤川宿伝誓寺現住     |        |        | 天保14年 |                      |
| 謙敬     | 額田郡細川村順行寺現住     |        | 万延元年   |       |                      |
| 了順     | 額田郡明大寺村万徳寺現住    | 弘化2年   | 弘化3年   |       | 大浜騒動関係者/暮戸会議出席       |
| 照山     | 額田郡若松村等周寺弟子     |        | 安政4年   |       |                      |
| 智道     | 額田郡鷺田村正専寺隠居     |        | 天保10年  |       |                      |
| 了海     | 額田郡鷺田村正専寺現住     |        | 嘉永5年   |       |                      |
| 諦観     | 幡豆郡浅井村正光寺現住     |        |        | 嘉永元年  |                      |
| 薩成     | 幡豆郡味崎村法円寺現住     | 文久2年   | 慶応2年   |       | 大浜騒動糾弾者、明治2年講義擬寮司    |
| 恵成     | 幡豆郡味崎村法円寺次男     |        | 慶応2年   |       | 幡豆郡市子村願海寺へ入          |
| 義辨     | 幡豆郡味崎村養林寺現住     |        | 弘化3年   |       |                      |
| 建輔     | 幡豆郡味崎村養林寺舎弟     | 嘉永6年   | 元治元年   | 明治3年  |                      |
| 恵成     | 幡豆郡市子村願海寺現住     |        |        |       | 明治2年講義擬寮司            |
| 晃耀     | 幡豆郡一色村安休寺現住     |        | 嘉永元年   | 嘉永3年  | 擬講師（慶応3年～）           |
| 浩然     | 幡豆郡一色村安休寺二男     | 弘化4年   | 嘉永4年   | 安政2年  | 碧海郡吉浜村正林寺へ転住         |
| 巨海     | 幡豆郡一色村安休寺舎弟（三男） |        | 安政2年   | 文久2年  |                      |
| 猶龍     | 幡豆郡一色村安休寺弟      | 安政元年   | 安政6年   | 元治元年  |                      |
| 静月     | 幡豆郡家武村浄顯寺現住     |        |        | 文政11年 | 役者                   |
| 円識     | 幡豆郡江原村福浄寺現住     |        |        | 文政11年 |                      |
| 大雲     | 幡豆郡江原村福浄寺弟子     |        | 天保11年  |       |                      |
| 齊賢     | 幡豆郡大塚村明栄寺現住     |        | 天保10年  |       | 碧海郡今村専超寺へ転住          |
| 了海     | 幡豆郡木田村正向寺後住     |        | 弘化2年   |       |                      |
| 了恩     | 幡豆郡花蔵寺村教昌寺現住    |        | 文政11年  |       |                      |
| 龍顕     | 幡豆郡下新井村本浄寺後住    |        | 弘化3年   |       |                      |
| 南玄     | 幡豆郡須美村敬寛寺現住     |        |        | 天保7年  |                      |
| 龍湛     | 幡豆郡高落村順寛寺隠居     |        | 天保7年   |       |                      |
| 説誠     | 幡豆郡中田村隆勝寺後住     | 安政3年   | 文久3年   | 明治2年  |                      |
| 騰雲     | 幡豆郡富田村願専寺現住     |        | 天保13年  | 弘化3年  |                      |
| 芳洲     | 幡豆郡西尾浄賢寺新発意     | 弘化元年   | 嘉永元年   |       |                      |
| 天然     | 幡豆郡西尾唯法寺現住      |        |        | 文政9年  | 役者                   |
| 観順     | 幡豆郡西尾唯法寺後住      |        |        | 嘉永3年  |                      |
| 深奥     | 幡豆郡西尾聖蓮寺        |        |        | 文久2年  |                      |
| 実円     | 幡豆郡西ノ町村正念寺現住    |        | 弘化3年   |       | 大浜騒動糾弾者              |
| 琳山     | 幡豆郡西ノ町村正念寺現住    |        |        | 嘉永3年  |                      |
| 轟海     | 幡豆郡西之町村正念寺弟子    |        | 安政3年   |       |                      |
| 智環     | 幡豆郡幡豆村正寺現住      |        | 天保13年  |       |                      |

| 僧侶名    | 寺院名             | 本山夏講初年 | 擬寮司入座年 | 寮司入座年  | 備考                                     |
|--------|-----------------|--------|--------|--------|--|
| 惠慶     | 轄豆郡羽角村惠念寺弟子     |        | 安政3年   | 文久元年   |  |
| 遠賢     | 轄豆郡平坂村無量壽寺現住    |        | 天保12年  |        |  |
| 広静     | 轄豆郡六栗村明壽寺現住     |        | 天保11年  |        |  |
| 義安     | 轄豆郡六栗村明壽寺後住     | 弘化3年   | 嘉永6年   |        |  |
| 布界     | 轄豆郡室村順成寺現住      |        |        | 天保14年  | 役者                                     |
| 清龍     | 轄豆郡室村順成寺次男      | 弘化4年   | 嘉永6年   | 文久3年   | 宝飯郡蒲形村尊覚寺(文久3年)、台嶺の兄                   |
| 見成     | 轄豆郡室村順成寺新發意     |        | 嘉永5年   | 慶応3年   | 明治2年講義寮司                               |
| 津梁     | 轄豆郡室村順成寺弟       | 嘉永5年   | 慶応元年   | 明治元年   | 明治2年尾州官津光西寺へ転住                         |
| 温謙     | 轄豆郡室村順成寺次男      | 文久2年   | 慶応2年   | 明治3年   | 轄豆郡須美村敬覚寺現住(明治3年)、大浜騒動関係者、明治2年講義当役・擬寮司 |
| 風麟     | 轄豆郡矢曾根村明泉寺      |        | 慶応3年   |        | 明治2年講義擬寮司                              |
| 法月     | 轄豆郡八面村瑞源寺隠居     |        | 天保2年   |        |  |
| 碩雲     | 轄豆郡横須賀村源徳寺後住    |        | 天保12年  | 嘉永4年   |  |
| 見影     | 轄豆郡横須賀村源徳寺弟子    | 弘化元年   | 嘉永2年   |        |  |
| 幽遠     | 轄豆郡横須賀村源徳寺弟     |        | 嘉永5年   | 安政5年   |  |
| 義勇     | 轄豆郡横須賀村源徳寺新發意   |        | 安政2年   |        |  |
| 敬意     | 轄豆郡横手村玉照寺現住     |        | 天保7年   |        | 役者                                     |
| 徳清     | 轄豆郡横中村玉照寺弟      |        | 天保13年  |        | 尾州へ入寺                                  |
| 天均     | 轄豆郡吉田村正覚寺現住     |        | 天保13年  |        |  |
| 遠山     | 轄豆郡寄住村永覚寺弟子     |        | 天保11年  |        |  |
| 一知     | 轄豆郡和気空寺現住       | 嘉永3年   | 慶応2年   |        | 明治2年講義擬寮司                              |
| 法寿     | 碧海郡青野村本光寺後住     |        | 天保11年  |        |  |
| 飛龍     | 碧海郡青野村本光寺新發意    |        | 嘉永元年   |        | 嘉永期の頼成異安心事件関係者                         |
| 神風     | 碧海郡青野村本光寺新發意    |        | 明治5年   |        |  |
| 見龍     | 碧海郡赤松村本楽寺現住     |        | 明治元年   |        | 大浜騒動糾弾者、明治2年講義当役・擬寮司                   |
| 徳存     | 碧海郡荒子村等覚寺現住     |        | 天保13年  | 弘化4年   |  |
| 正雄     | 碧海郡安城村明法寺後住     |        | 嘉永2年   |        |  |
| 大龍     | 碧海郡安城村明法寺次男     |        | 嘉永6年   |        |  |
| 大借     | 碧海郡泉田村順慶寺三男     |        | 嘉永元年   | 嘉永5年   | 碧海郡福釜村西岸寺へ移転                           |
| 靈瑞     | 碧海郡泉田村順慶寺三男     | 嘉永元年   | 嘉永6年   | 元治元年   | 渥美郡野田村安楽寺現住(元治元年)                      |
| 勇猛     | 碧海郡泉田村順慶寺次男     |        | 弘化元年   |        | 碧海郡西境村信歎寺入寺                            |
| 淳了     | 碧海郡泉田村淨信寺現住     |        |        | 天保13年  | 大浜騒動関係者/暮戸会議出席                         |
| 了祥     | 碧海郡泉田村西念寺現住     | 安政4年   | 明治5年   |        |  |
| 祐海     | 碧海郡一色村明円寺       |        | 慶応3年   |        | 加茂郡桑田村久遠寺へ転住                           |
| 齊心     | 碧海郡今村専超寺現住      |        |        | 文政6年   | 天保5年6月28日没、明治3年4月8日贈擬講受命               |
| 齊聖     | 碧海郡今村専超寺現住      |        | 天保8年   | 弘化2年   |  |
| 国香     | 碧海郡今村専超寺次男      |        | 嘉永2年   |        |  |
| 齊意     | 碧海郡今村専超寺弟       |        | 安政6年   |        |  |
| 神嶺     | 碧海郡牛田村西教寺新發意    |        | 明治5年   |        |  |
| 遠賢     | 碧海郡永覚村専念寺       |        | 安政6年   | 文久3年   |  |
| 実忠     | 碧海郡大友村安受寺現住     |        | 明治3年   |        |  |
| 秀山     | 碧海郡大浜村西方寺弟子     |        | 天保9年   | 弘化元年   |  |
| 惟影     | 碧海郡大浜村西方寺弟子     |        | 慶応2年   |        |  |
| 円徳     | 碧海郡大浜村本伝寺弟子     |        | 文久元年   | 慶応元年   |  |
| 天寧     | 碧海郡大浜村松江光寺現住    | 弘化3年   | 安政2年   |        |  |
| 了雄     | 碧海郡小川村蓮泉寺後住     |        | 弘化2年   |        |  |
| 義呈     | 碧海郡小川村蓮泉寺次男     |        | 嘉永5年   | 慶応2年   | 加茂郡酒呑村普福寺現住(慶応2年)                      |
| 台嶺     | 碧海郡小川村蓮泉寺新發意    | 文久3年   | 嘉永3年   | 明治3年   | 大浜騒動糾弾者、轄豆郡室村順成寺より入寺、明治2年講義等役・擬寮司      |
| 專精     | 碧海郡鷺鴨村安福寺現住     |        | 明治3年   |        |  |
| 正順(順意) | 碧海郡神有村(鷺塚)応春寺   |        | 弘化2年   |        |  |
| 律馨     | 碧海郡神有村(鷺塚)照光寺現住 |        | 嘉永3年   | 嘉永6年   |  |
| 大雲     | 碧海郡川崎村西心寺現住     |        |        | 嘉永5年   | 明治2年講義寮司(隠居)                           |
| 扶山     | 碧海郡川野村宗円寺現住     |        | 天保14年  |        |  |
| 信順     | 碧海郡古井村願力寺現住     |        | 天保10年  | (弘化2年) |  |
| 賢覚(賢学) | 碧海郡小山村敬専寺現住     |        | 天保9年   |        |  |
| 芦洲     | 碧海郡在家村養楽寺現住     |        | 天保12年  | 弘化3年   |  |
| 宗貫     | 碧海郡境村泉正寺現住      |        | 天保3年   |        |  |
| 珠宏     | 碧海郡境村信歎寺現住      |        |        | 嘉永2年   |  |
| 順潮     | 碧海郡桜井村円光寺現住     |        | 天保9年   | 嘉永元年   | 明治2年講義寮司                               |
| 暁煥     | 碧海郡桜井村円光寺新發意    | 嘉永3年   | 明治元年   |        | 大浜騒動糾弾者、順静、明治2年講義擬寮司                   |
| 徹照     | 碧海郡桜井村法行寺現住     |        | 天保9年   |        | 文政8年入座                                 |
| 謙承     | 碧海郡桜井村法行寺弟(次男)  | 安政3年   | 元治元年   | 慶応2年   | 碧海郡若林村浄照寺へ転住                           |
| 法梁     | 碧海郡桜井村法行寺三男     |        | 万延元年   | 明治2年   | 額田郡駒立村本光寺現住(明治2年)                      |
| 徹観     | 碧海郡佐々木村上宮寺弟子    | 慶応2年   | 明治元年   |        | 大浜騒動関係者                                |
| 義存     | 碧海郡佐々木村上宮寺現住    |        |        | 明治5年   |  |
| 見曜     | 碧海郡重原村淨福寺現住     |        | 天保12年  |        |  |
| 円海     | 碧海郡下和田村常楽寺現住    |        | 嘉永2年   |        |  |
| 龍玄     | 碧海郡下和田村常楽寺弟子    | 安政5年   | 元治元年   | 明治3年   | 宝飯郡牛久保村浄福寺現住(明治3年)                     |
| 淳心     | 碧海郡上条村浄空寺現住     |        | 嘉永5年   | 万延元年   |  |
| 志道     | 碧海郡高柳村空臨寺弟子     |        | 安政2年   |        | 役者                                     |
| 了親     | 碧海郡竹村光恩寺現住      |        |        | 天保10年  |  |
| 円海     | 碧海郡棚尾村光輪寺現住     |        | 天保8年   | 弘化元年   |  |
| 謙敬     | 碧海郡棚尾村光輪寺現住     |        | 明治2年   |        | 明治2年講義当役・擬寮司                           |
| 大慰     | 碧海郡築地村誓願寺現住     |        |        | 弘化元年   | 天保7年入座                                 |
| 淨龍     | 碧海郡堤村願誓寺新發意     |        | 明治元年   | 明治4年   | 明治2年講義擬寮司                              |
| 耿斉     | 碧海郡堤村願誓寺次男      |        | 明治2年   |        | 明治2年講義擬寮司                              |
| 字源     | 碧海郡中根村随願寺       |        | 弘化2年   |        |  |
| 法観     | 碧海郡中根村真浄寺現住     | 明治2年   | 明治3年   |        | 大浜騒動糾弾者、至静                             |
| 密雲     | 碧海郡中根村随願寺後住     |        | 明治3年   |        |  |
| 琢成     | 碧海郡中之郷村浄妙寺隠居    |        |        | 弘化3年   |  |
| 了首     | 碧海郡中村善教寺現住      |        | 天保元年   | 弘化4年   |  |
| 徹観     | 碧海郡野寺村善證寺後住     |        |        |        | 明治2年講義擬寮司                              |
| 洗心     | 碧海郡花園村養寿寺次男     | 弘化3年   | 嘉永4年   | 安政2年   | 宝飯郡御馬村敬円寺へ転住                           |
| 祐信     | 碧海郡馬場村願正寺現住     |        | 天保2年   |        | 役者                                     |
| 義周     | 碧海郡東浦村東正寺現住     |        | 文政9年   | 弘化2年   |  |
| 龍章     | 碧海郡東浦村東正寺三男     |        | 明治3年   |        |  |
| 誓親     | 碧海郡一ツ木村法林寺新發意   | 安政6年   | 明治元年   |        | 大浜騒動糾弾者、明治2年講義擬寮司                      |
| 智道     | 碧海郡浜尾村(大浜)精通寺弟子 |        | 天保11年  |        |  |
| 諱岸     | 碧海郡藤井村安正寺現住     |        | 弘化3年   |        |  |
| 通津     | 碧海郡古井村徳念寺後住     |        | 安政3年   |        |  |
| 義叔     | 碧海郡本郷村正法寺       |        |        | 嘉永6年   |  |
| 幽玄     | 碧海郡松江村(大浜)専興寺養弟 |        | 弘化元年   |        |  |
| 惠辨     | 碧海郡宗定村祐専寺弟子     |        | 安政元年   |        |  |
| 東閑     | 碧海郡宗定村祐専寺舎弟     |        | 安政4年   | 万延元年   |  |
| 雲雲(広宣) | 碧海郡元刈谷村専光寺弟子    | 嘉永6年   | 万延元年   | 元治元年   | 大和国添下郡城村徳藏寺へ転住                         |
| 関山     | 碧海郡元刈谷村専光寺弟     | 安政元年   | 元治元年   |        |  |
| 霊洞     | 碧海郡八橋村浄教寺現住     |        | 万延元年   | 天保9年   | 文政12年入座                                |
| 越風     | 碧海郡八橋村浄教寺新發意    |        | 万延元年   | 文久3年   |  |
| 秀賢     | 碧海郡吉浜村寿覚寺舎弟     | 元治元年   | 明治2年   |        | 周見改名、明治2年講義擬寮司                         |
| 義住     | 碧海郡吉浜村正林寺弟子     |        |        | 明治4年   |  |
| 首瑞     | 碧海郡吉原村教照寺隠居     |        | 天保5年   |        |  |
| 貫静     | 碧海郡吉原村教照寺現住     |        | 明治3年   |        |  |
| 一貫     | 碧海郡米津村龍讀寺       |        | 弘化2年   |        |  |
| 義弁     | 碧海郡鷺塚村蓮成寺現住     |        |        | 弘化3年   |  |
| 法輔     | 碧海郡鷺塚村蓮成寺弟子     |        | 嘉永6年   |        |  |
| 智蔵     | 碧海郡鷺塚村蓮成寺弟子     |        | 安政2年   |        |  |

(暮戸教会文書「隸名簿」「入役者帳」より作成、各郡で村名順に掲載)

色村安休寺一派（浩然・猶龍・巨海）が三河の真宗僧侶内で力を付けることとなった。ちなみに、のちに大浜騒動の首謀者となる台嶺は、文久三年（一八六三）に夏講に初入し、慶応三年に擬寮司になり、また同年に碧海郡小川村蓮泉寺の石川了英の婿養子として入寺している。

慶応三年（一八六七）八月に、嗣講師の闡彰院空竟が三河に入国した。

彼は、翌明治元年（一八六八）八月に本山高倉学寮内で護法場を創設した時の中心人物であった。護法場とは明治維新に際して、耶蘇教を念頭に置き、破邪護法の精神で創った研究機関であり、漢訳キリスト教書「天路歷程」を指導書とした。創設の中心人物は、先に示した闡彰院空竟の他に、講師の香山院竜温、嗣講師の威力院義導であった。<sup>(38)</sup>なお護法場の背景には、明治元年（一八六八）七月に、真宗五派が排邪推進のため盟約を結んだことがあり、それがその後の同年一二月に、排仏思想に対して仏教の国家への貢献を唱えた諸宗同徳会盟の結成に繋がる。

明治元年（一八六八）二月五日に暮戸会所にて、嗣講師の開華院法住が「往生即成仏義」を講じ、同年五月にも再び三河を訪れ、同年八月二八日には本證寺にて「七祖相承義」を講じている。明治二年八月には香山院竜温が三河を訪れ、本證寺と吉田御坊で「仏説法滅尽経」を講じ、因明院雲英晃耀が「破邪論」を副講した。なお、因明院雲英晃耀は同年に「破切支丹」を内題とした『護法総論』<sup>(40)</sup>を著わし、遠州各地に説論巡回をしている。同年一〇月には、雲澗院神興が三河に入っている。

そして、石川台嶺が幹事、碧海郡高取村専修坊の星川法沢が総監となつて、全国に先駆けて明治二年（一八六九）正月に三河護法会を結成した。

その石川台嶺は、同年四月、香山院竜温に師事し、竜温社に所属した。星川法沢は尾張国津島の成信坊の僧侶で、嗣講師まで勤めた正定院制心の子

表6 明治3年講演会の役員（配役）

| 配役      | 僧侶   | 郡・村・寺        | 備考           | 擬寮司年 |
|---------|------|--------------|--------------|------|
| 知事      | 龍玄   | 碧海郡下和田村常円寺弟  | 宝飯郡牛久保村浄福寺現住 | 元治元年 |
| 知事      | 法道   | 加茂郡上野山村明勝寺後住 |              | 慶応元年 |
| 知事      | 一知   | 幡豆郡和気来空寺現住   |              | 慶応2年 |
| 知事      | 台嶺   | 碧海郡小川村蓮泉寺新發意 | 大浜騒動糾弾者      | 慶応3年 |
| 施斎任係    | 謙敬   | 碧海郡棚尾村光輪寺現住  |              | 明治2年 |
| 施斎任係    | 智山   | 額田郡小美村順正寺新發意 | 大浜騒動糾弾者      | 明治元年 |
| 諸上納（会計） | 薩成   | 幡豆郡味崎村法円寺現住  | 大浜騒動糾弾者      | 慶応2年 |
| 諸上納（会計） | 見龍   | 碧海郡赤松村本楽寺現住  | 大浜騒動関係者      | 明治元年 |
| 書記      | 潭龍   | 碧海郡堤村願誓寺新發意  |              | 明治元年 |
| 書記      | 徹尊   | 加茂郡田振村楽円寺後住  |              | 明治2年 |
| 庫頭      | 隆秀   |              |              |      |
| 庫頭      | 專精   | 碧海郡鴛鴨村安福寺現住  |              | 明治3年 |
| 庫頭      | 了真   |              |              |      |
| 肝煎同行    | 次郎吉  | 碧海郡暮戸村       |              |      |
| 肝煎同行    | 斧左衛門 | 碧海郡土井村       |              |      |
| 肝煎同行    | 惣右衛門 | 碧海郡暮戸村       |              |      |
| 肝煎同行    | 新蔵   | 碧海郡筒針村       |              |      |
| 肝煎同行    | 清右衛門 | 碧海郡東矢作村      |              |      |
| 肝煎同行    | 九左衛門 | 碧海郡阿弥陀堂村     |              |      |
| 齋堂詰     | 善蔵   | 碧海郡暮戸村       |              |      |
| 齋堂詰     | 幸左衛門 | 碧海郡暮戸村       |              |      |
| 齋堂詰     | 惣十   | 碧海郡暮戸村       |              |      |
| 齋堂詰     | 新兵衛  | 碧海郡村高村       |              |      |
| 齋堂詰     | 文右衛門 | 碧海郡村高村       |              |      |

（暮戸教会蔵「講筵日誌」より作成）

供で、石川台嶺同様に学僧の血筋を引いていた。先に記した同年八月の香山院竜温の本證寺講義は、三河護法会結成直後の状況下で行われ、約四〇〇人の僧侶を集めたという。さて同年四月から翌三年（一八七〇）七月にかけて、本山護法場において、革新派の青年僧数名が乱暴を働き、逮捕されるという「見影一件」という事件が発生し、石川台嶺の名も見え何らか

の関連を持つていた。当時、護法場を中心に、旧来からの坊官らの勢力を削ぐ寺務改革が進んでいた。それに関連すると推測される。再度三河に目を転じると、明治三年（一八七〇）に暮戸会所に開華院法住の講義が開催された。寮司の

周観・徳風、美濃国法螺、伊豆国諦成が同道している。そこでは、僧侶だけでなく門徒たちも役員としても協力し（表6参照）、多くの参加者を得ている。<sup>(41)</sup> 翌明治四年（一八七二）二月にも、三河護法会主催によって暮戸会所で威力院義導の講義が開催され、三日間に約二三〇名の人を集めた。このような講開催の動向が、翌年の大浜騒動にて、暮戸会所から始まり、かつ門徒農民を巻き込む要因になったものと思われる。なお、三河に滞在していた威力院義導は大浜騒動に巻き込まれ、同年五月末に騒動の後始末を行いに来た闡彰院空覚と替わって帰京した。この騒動によって、幡豆郡室村順成寺一派は罪を受け、騒動後の三河寺院の体制では、取締役に因明院晃耀、取締助勤に牧浩然というように皮肉にも幡豆郡一色村安休寺一派が把握することになった。

なお、本山護法場を統括していた闡彰院空覚は、本山で寺務改革を推進しており、明治四年（一八七二）一〇月に暗殺された。

おわりに（総括）

最後に、大浜騒動の糾弾者ほか関係僧侶が、本山高倉学寮や三河護法会とどのような関連性を有していたのかを明確にしておこう（表7参照）。

本山の夏講には、安政六年（一八五九）から大浜騒動の糾弾者はじめ関係僧侶をみる事ができ、明治三年（一八七〇）の参加まで計一六人を数える。大浜騒動の糾弾僧侶総計が四一名中、その約三七%を占める数が夏講参加僧侶である。次に、寮司・擬寮司をみると、大浜騒動の糾弾者が五人（台嶺・薩成・智山・誓鑑・実円）で、その他七人の関係者を有している。つまり、大浜騒動に関係した僧侶の多くは、幕末期の本山における宗学組

表7 大浜騒動の糾弾三河国僧侶と宗学との関連性

| 郡・村名    | 糾弾 | 刑      | 師事者（開始時期：明治4年以前）     | 夏講初入 | 寮司・擬寮司 | 明治3年講演役員 | 備考                |
|---------|----|--------|----------------------|------|--------|----------|-------------------|
| 碧海郡小川村  | 不屈 | 斬罪     | 香山院童温（明治2年）          | 文久3年 | 慶応3年～  | ○        | 明治2年講演（知事加役諸事係）   |
| 碧海郡高取村  | 不屈 | 准流10年  | 闡彰院空覚                |      |        |          | 牢死                |
| 碧海郡野寺村  | 不屈 | 懲役3年   |                      |      |        |          | 牢死                |
| 幡豆郡味崎村  | 不屈 | 懲役3年   | 因明院雲英晃耀（慶応期）         | 文久2年 | 慶応2年～  | ○        | 明治2年講演（知事加役庫頭方）   |
| 碧海郡高取村  | 不屈 | 懲役2年半  |                      |      |        |          | 高取村専修坊星川法沢の義弟     |
| 碧海郡赤松村  | 不屈 | 懲役2年   | 楠潜竜（慶応3年）            |      | 明治元年～  |          | 見籠                |
| 碧海郡城ヶ入村 | 不屈 | 懲役2年   |                      | 明治2年 |        |          | 城ヶ入村城泉寺川那辺の弟、香水   |
| 額田郡小美村  | 不屈 | 懲役2年   |                      | 元治元年 | 明治元年～  | ○        | 新発意               |
| 幡豆郡矢曾根村 | 不屈 | 懲役2年   | 因明院雲英晃耀（慶応3年）        | 文久3年 |        |          |                   |
| 碧海郡中田村  | 不屈 | 懲役2年   |                      | 元治元年 |        |          | 患白                |
| 碧海郡一ツ木村 | 不屈 | 懲役2年   | 因明院雲英晃耀（安政4年）        | 安政6年 | 明治元年～  |          | 新発意               |
| 碧海郡根崎村  | 不屈 | 懲役1年半  | 楠潜竜（慶応3年）、占部親順（明治3年） | 明治2年 |        |          | 高取村専修坊星川法沢の義弟、龍巖  |
| 碧海郡桜井村  | 不屈 | 懲役1年半  |                      |      | 明治元年～  |          | 煥                 |
| 碧海郡今村   | 不屈 | 懲役1年半  |                      | 明治元年 |        |          | 齊由                |
| 碧海郡里村   | 不屈 | 懲役1年半  | 牧浩然（明治元年）            |      |        |          |                   |
| 碧海郡里村   | 不屈 | 懲役1年半  |                      |      |        |          | 小川村蓮泉寺石川台嶺の弟子     |
| 碧海郡姫小川村 | 不屈 | 懲役1年半  |                      |      |        |          |                   |
| 幡豆郡味崎村  | 不屈 | 懲役1年半  | 青木一順                 | 慶応元年 |        |          | 味崎村法円寺石川藤成の弟      |
| 幡豆郡丁田村  | 不屈 | 懲役1年半  |                      |      |        |          |                   |
| 幡豆郡池頭村  | 不屈 | 懲役1年半  | 因明院雲英晃耀（慶応期）         | 文久3年 |        |          | 徳門                |
| 幡豆郡中田村  | 不屈 | 懲役1年半  |                      | 慶応元年 |        |          | 智法                |
| 碧海郡北中根村 | 不屈 | 懲役1年半  | 因明院雲英晃耀（明治2年）        |      | 明治3年～  |          | 法親                |
| 幡豆郡須美村  | 不屈 | 懲役1年半  | 闡彰院空覚（文久3年）          |      |        |          | 小川村蓮泉寺石川台嶺の弟      |
| 幡豆郡須美村  | 不屈 | 懲役1年半  |                      | 慶応3年 |        |          | 須美村敬覚寺沢門盛の弟子      |
| 幡豆郡深溝村  | 不屈 | 懲役1年半  |                      | 文久元年 |        |          | 高浜村恩任寺役僧          |
| 碧海郡榎前村  | 不屈 | 懲役1年   |                      | 慶応3年 |        |          | 大道                |
| 碧海郡今岡村  | 不屈 | 懲役1年   |                      |      |        |          |                   |
| 幡豆郡戸ヶ崎村 | 不屈 | 懲役1年   |                      | 明治3年 |        |          | 観水                |
| 碧海郡城ヶ入村 | 不埒 | 懲役1年半  |                      |      |        |          | 城ヶ入村城泉寺川那辺義導の兄、牢死 |
| 碧海郡高取村  | 不埒 | 懲役1年半  |                      |      |        |          | 高取村専修坊星川法沢の義弟     |
| 碧海郡高棚村  | 不埒 |        |                      |      |        |          |                   |
| 碧海郡野寺村  | 不埒 |        |                      |      |        |          |                   |
| 碧海郡高取村  | 不埒 |        |                      |      |        |          |                   |
| 額田郡針崎村  | 不埒 |        |                      |      |        |          |                   |
| 幡豆郡市子村  | 不束 | 禁錮10か月 | 因明院雲英晃耀（安政期）         |      |        |          | 味崎村法円寺石川藤成の弟      |
| 碧海郡鷲塚村  | 不束 | 禁錮10か月 | 占部親順（明治2年）           |      |        |          |                   |
| 碧海郡東端村  | 不束 |        |                      |      |        |          |                   |
| 碧海郡小川村  | 不束 |        |                      |      |        |          | 小川村蓮泉寺石川台嶺の養父     |
| 碧海郡寺領村  | 不束 |        |                      |      |        |          |                   |
| 幡豆郡上町村  | 不束 |        |                      |      | 弘化3年～  |          |                   |
| 碧海郡高須村  | 不束 |        |                      |      |        |          |                   |

（『大浜騒動』、暮戸会所文書などより作成）

織の影響を大きく受けていることが知り得るのである。そして、本山の宗学組織への三河の支援体制つまり宗学体制の拠点が、暮戸会所であった。暮戸会所争論が改革派寺院の勝利という結果に収まったことよって、改革派寺院が中心となって、暮戸会所を本山再建支援目的の募金活動の拠点から宗学の拠点へと変換を図ることとなったものと思われる。それが紆余曲折ありながらも、幕末維新期まで継続・発展した。とくに、明治二年（一八六九）に創立した三河護法会や本山学僧による講義が暮戸会所で行われたことにより、暮戸会所が大浜騒動を起こす舞台になっていたのである。

さて、明治二年（一八六九）二月、長崎の浦上でキリシタン約三四〇〇人が捕らえられる事件が発生した。慶応四年（一八六八）四月の禁令の結果である。「仏を以て耶穌を防か令むるに不如<sup>(42)</sup>」というように、新政府は当初切支丹対策について真宗など仏教へ期待を寄せていたが、次第に国家としての神道の力で、キリスト教の天主に代えて、キリスト教を封じ込めるよう変わっていく。明治三年（一八七〇）正月、大教宣布の詔の発布に際して、神祇官神殿で行われた国家祭典と宣教講義が開始され、明治四年（一八七二）三月の神武天皇祭で、天皇を最高祭主として国家的規模で祭祀が実施された<sup>(43)</sup>。

三河に領地を持つ上総国菊間藩政をみると、教諭使に任命された光輪寺高木賢立の日記には「於神前ハ念仏ヲ少音ニ称フヘキ、追付祝詞ヲ下サル・・・天照太神宮大倭姫ニ託宣シ玉フソノ御言ニ、神前ニ於テハ、シハラク仏法ノ息ヲカクセ<sup>(44)</sup>」とあり、歴代天皇と天照大御神の神霊を半ば強制的に拝する「天拜日拜問題」が発生し、この菊間藩政は明治新政府の政策の延長線上に位置していた。当時の三河は静岡藩や徳川家譜代の諸藩が多

く、新政府の宗教政策を素直に相入れなかった。また、国家神の創出が真宗優勢地域の生活をも脅かす存在になりかねないと感じ、敢えて火中の栗を拾うことはしなかったと思われる。しかし、三河においても平田派国学者の神職などの活動はあり、菊間藩の学問所取締役に任命された、碧海郡新堀村の木綿問屋深見篤慶は、幕末より草莽の志士を支援し、有栖川宮と関係を持っており、この菊間藩宗教政策を進めたのである。門徒など民衆は、いずれ仏前でも念仏が禁止されるといふ流言が広がり、「仏敵・法敵」という意識が高まっていった。このことは、単に菊間藩領だけの問題ではなく、小領主錯綜地域であった西三河全域に及ぶ真宗優勢地域の問題として捉えられていった。キリスト教を念頭に置いたものではなかったものの「耶穌」という言葉で反骨の精神を集結させ、三河護法会主催等の講義に参加した僧侶・門徒たちを中心に、菊間藩政および新政府の宗教政策に對抗して騒動に至ったものと考えられる。

(1) 拙稿「大浜騒動の社会的背景―暮戸会所を中心とした東本願寺派寺院の動向について」『岡崎市史研究』八（一九八六年）、「江戸時代後期、三河における真宗寺院の組織について」『愛知県史研究』一（一九九七年）、「江戸時代後期における東本願寺派中本寺の添書権と末寺関係―本證寺の『添状留記』の分析を中心に」『安城市史研究』一（二〇〇〇年）、「幕末維新时期における西三河の真宗東本願寺派本末争論―九条殿施経差纏一件を中心に」『新編安城市史報告書3 本證寺文書史料集「諸事記」』（二〇〇三年）、「江戸時代後期の本山再建に関する真宗門徒の考察」『信濃』六六九（二〇〇五年）、「天保期における宗教をめぐる地域紛争の一考察―三河の暮戸会所争論を中心に」『日本歴史』七二四（二〇〇七年）、「第七章 真宗と地域社会」『新編安城市史2 通史編近世』（安城市、二〇〇七年）。

(2) この点については、澤博勝「近世社会における仏教的『教え』の受容と伝達」

『仏教史研究』四六一―二〇〇三年）、松金直美「近世真宗における〈教え〉伝達のメディア」『大谷大学大学院紀要』一三三、二〇〇六年）等の研究がある。

(3) 『大谷派学事史』『続真宗体系』二〇（真宗典籍刊行会、一九四一年）。

(4) 武田統一『真宗教学史』（平楽寺書店、一九四四年）。

(5) 名古屋別院の動向を批判する内容。威広院靈曜は、香月院深励を師事し、名古屋城下の養念寺七代目住職を継いだ。文化二年に寮司に、同年に擬講師に、同七年に尾張五人男の異義に連座して擬講師を退役した。文政四年に擬講師に再任される。尾張五人男については『名古屋別院史 通史編』（真宗大谷派名古屋別院、一九九〇年）が詳しい。

(6) (4)と同じ。

(7) 『新編岡崎市史 近世3』（一九九二年）。なお『歎異抄聞記』は、妙音院了祥の死後、弟子の華法院法住がまとめたといわれている。後の時期になるが、安政五年（一八五八）には、加茂郡寺部村守綱寺に妙音院了祥門下で当時擬講師の開華院法住が転住している。

(8) 『大谷派学事史略年表』『続真宗体系』二〇（真宗典籍刊行会、一九四一年）。

(9) (4)と同じ。

(10) 武田統一『真宗教学史』（平楽寺書店、一九四四年）。なお、本法令は文政一二年（一八二九）、幕府から出された僧侶不律不如法の触れに順応したものである。

(11) 香樹院徳龍は、越後国蒲原郡水原の無為信寺の僧侶。文化七年に寮司、文政三年に擬講師に、弘化四年に講師になる。大須賀秀道「香樹院に就いて 併て一蓮院と香山院と」（『大谷学報』九一三、一九二八年）。

(12) (4)と同じ。

(13) 『真宗史料集成六 各派門主消息』（同朋舎、一九八三年）。

(14) 開悟院靈暉は、越中国音杉村稗田円満寺の出身。文化四年に寮司、文政三年に擬講師に、文政七年に嗣講師に、嘉永二年に講師になる。

(15) 華光院円解は、豊後国光西寺の僧侶。天保十一年に死去している。

(16) 武田統一『真宗教学史』（平楽寺書店、一九四四年）および『上首寮日記Ⅱ』（大谷大学真宗総合研究所、一九八八年）。

(17) 『大浜騒動』（三河殉教記念会、一九八二年）。

(18) 大桑斉「幕末在村知識人と真宗」『日本思想史学』二九（一九九七）では、真宗と国学・通俗道德の三者が交錯している状況を報告されているが、三河の場合は真宗と国学が対向関係にあったように思われる。実際、真宗浸透度の強い碧海郡における平田門国学者は明治初年に漸く存在し、三河の他の郡に比べかなり遅い状況といえよう。

(19) 暮戸教会文書「安居諸雜記」（史料番号二四七）。

(20) 国役の雅了が、どこの住職かは不明。

(21) 暮戸教会文書「隸名帳」（史料番号二五七）。

(22) 武田統一『真宗教学史』（平楽寺書店、一九四四年）、水谷寿『異安心史の研究』（大雄閣、一九三四年）および『上首寮日記Ⅲ』（大谷大学真宗総合研究所、一九八九年）。皆乘院親月は、美濃国善行寺の僧侶。嘉永二年に嗣講師になる。

(23) 雲華院大合は、豊後国岡満徳寺の僧侶。文化元年に寮司に、文政二年に擬講師に、文政四年に嗣講師に、天保五年に講師になる。開悟院靈暉は(13)を参照。また、香雲院澄玄は、近江国唯泉寺の僧侶。天保十一年に嗣講師になる。また、易往院知準は、山城国榮正寺の僧侶。天保十一年に擬講師になる。

(24) 『大谷派学事史略年表』『続真宗体系』二〇（真宗典籍刊行会、一九四一年）および『異安心御教誠集』『続真宗体系』一八（真宗典籍刊行会、一九三九年）、山崎法順「三河円楽寺第六世圭州の生涯とその異解」（『続真宗体系月報』一九、一九四〇年）。なお、圭州は尾張国中島郡中野村の出身で、名古屋養念寺威広院靈曜に師事し、尾張五人男事件で連座した経歴を持つ。

(25) 「異安心御教誠集」『続真宗体系』一八（真宗典籍刊行会、一九三九年）。

(26) 観成は、能登国長光寺頓成の門人。大坂西成郡中島村の了願寺の出身で、高倉学寮で学んでいる時に、寮司の唯法寺順孝に出会い、弘化四年（一八四七）に兄娘の養子となり三河国西尾の唯法寺に入寺し、観順（のちの占部観順）と改めた。明治四年（一八七一）に大浜騒動の台嶺の助命に奔走する。

(27) 『上首寮日記Ⅰ』（大谷大学真宗総合研究所、一九八七年）。

(28) 冷香院潛龍は、明治四年に擬講師に、明治二〇年に嗣講師に、明治二七年に講師になる。最終的に美濃国八幡安養寺の僧となった。

(29) 因明院晃耀は、慶応三年に擬講師に、明治一九年に嗣講師に、明治二六年に講師になる。

(30) 「岡崎専福寺資料の研究」(『同朋学園大学仏教文化研究所紀要』六、一九八四年)。

(31) 『嚴如上人御一代記Ⅰ』(大谷大学真宗総合研究所、一九九一年)。

(32) 『上首寮日記Ⅲ』(大谷大学真宗総合研究所、一九八九年)。

(33) 『上首寮日記Ⅳ』(大谷大学真宗総合研究所、一九九〇年)、水谷寿『異安心史の研究』(大雄閣 一九三四年)。なお、本稿では学寮も本山側と捉えているが、『異安心史の研究』では本山と学寮との対立と捉えている。

(34) (4)と同じ。

(35) 暮戸教会文書。

(36) 雲澗院神興は、越前国南條郡金粕村憶念寺の僧侶で、雲華院大舎に師事。

(37) 闍彰院空覚は、山城国西方寺の僧侶で、雲華院大舎に師事し、嘉永二年に擬講師に、慶応元年に嗣講師になる。

(38) 香山院竜温は、岩代国会津の出身で、京都円光寺の僧侶で、香樹院徳龍に師事した。嘉永二年に擬講師に、文久元年に嗣講師に、慶応元年に講師になる。

織田顕信「香山院竜温社中名簿について」『真宗教団史の基礎的研究』(法蔵館、二〇〇八年)。また、威力院義導は、越後国景清寺・美濃国願正坊の僧侶で、安政三年に擬講師に、慶応二年に嗣講師になる。

(39) 開華院法住は、江戸の伝久寺の僧侶で、嘉永二年に擬講師に、文久元年に嗣講師になる。

(40) 久米昭次郎「雲英晃耀『護法総論』その一〜六」(『三河大浜騒動考』二〇二二年)。

(41) 暮戸教会文書「講筈日誌」。

(42) 島内登志衛編『谷干城遺稿』(靖献社、一九二二年)。

(43) 羽賀祥二『明治維新と宗教』(筑摩書房、一九九四年)。

(44) 「賢立覚書」『史料大浜騒動 同朋大学仏教文化研究所研究叢書Ⅵ』(法蔵館 二〇〇三年)。

#### 〔謝辞〕

本稿作成に当たり、愛知県史・安城市史の調査当時にお世話になった関

係の皆様、史料所蔵・管理者の方々にお礼申し上げます。また、本稿は、上記編纂当時書き上げた草稿を、令和四年七月の大浜騒動一五〇周年記念シンポジウム「再考 三河大浜騒動から問われていること」の講演にあわせて加筆修正したもので、殉教記念会をはじめ三河における真宗関係や西尾市岩瀬文庫の皆様にお礼申し上げます。

(名古屋女子大学短期大学部)